

火災対策

初期消火の3原則！

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければ鍋ややかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油鍋

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて（できればブレーカーも切る）消火する。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類（化繊は避ける）やタオルなどを頭からかぶる。

浴室

浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて一気に消火する。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火する。（斜めにかけてと石油が飛び散って危険）石油が流れて広がっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。火元を天井から遠ざけ、その上で消火する。

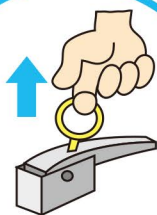
3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、すみやかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を断つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指を
かけ上に引き抜く。



ホースをはずして
火元に向ける。



レバーを強く握って
噴射する。

消火器の構え方

- 風上に回り風上から消す。火事にはまともに正面から立ち向かわないようにする。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



自宅の火災予防

火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。火災による死傷者をなくすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

寝室

すべての寝室への設置が必要です。（子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります）

階段

寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。

住宅内取付位置図



注意：住宅用火災警報器は電池式のもの主流です。電池の寿命は5年から10年といわれていますので、早めに交換しましょう。